

事務事業評価シート

事業番号 No. 28		事務事業名 骨髄移植ドナー支援奨励金		所管部課 健康課						
基礎情報	事業開始時期【1】	平成29年度		実施形態【2】 ☐ 直営 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ その他 ()						
	根拠法令等【3】	移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律、西東京市骨髄移植ドナー支援事業奨励金交付要綱								
	総合計画【4】	基本目標	基本施策		施策					
	個別計画【5】	計画	施策等①		施策等②					
事務事業の概要	事務事業の目的と目指す成果【6】	公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業において、骨髄又は末梢血幹細胞を提供した者等に対して交付する。骨髄等提供者の負担軽減及び、骨髄等移植の推進、ドナー登録者の増加を図ることを目的とする。								
	事務事業の内容・実施方法等／補助の概要【7】	【補助の概要】 ■申請方法：骨髄等の提供が完了した日から1年以内に、交付申請書兼請求書にドナー提供が完了したことを証明する書類を添えて申請を行う。 ■補助対象： ①ドナー 骨髄等の提供が完了した方で、提供を完了した日において市内に住所を有し、かつ、市の住民基本台帳に記録されている方 ②事業所 ドナーが勤務する国内の事業所 ※国、地方公共団体、独立行政法人及び地方独立行政法人を除く。 ■補助額：骨髄等の提供のため要した日数①ドナー2万/日（上限7日間）、②事業所1万/日（上限7日間） ■国・都補助の有無：あり（保健医療政策区市町村包括補助事業） ■上乗せ横出し補助の有無：なし								
事業費データ	項 目	令和5年度(決算額)		令和6年度(決算額)		令和7年度(決算見込額)		令和8年度(予算額)		単位
	事業費計【8】	770		0		280		630		千円
	財源内訳	385		0		140		315		
	国庫支出金・都支出金	385		0		140		315		
	その他()	385		0		140		315		
	一般財源	385		0		140		315		
	人件費計【9】	335		372		372		372		
内訳	0.05 人	335 千円	0.05 人	372 千円	0.05 人	372 千円	0.05 人	372 千円		
正職員	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円		
会計年度任用職員	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円		
総コスト	1,105		372		652		1,002			
活動実績【10】	項 目	令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	①周知手段（HP、啓発ポスター、「二十歳のつどい」でのリーフレット等配架）	4	4	4	4	4	4	4	4	種類
②										
成果指標【11】	項 目	令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	申請者数	3	5	6	0	5	2	4	4	人
	①【成果指標の説明】	提供を完了した日において市内に住所を有し、かつ、市の住民基本台帳に記録されている方の申請者数を成果指標とする。								
	申請事業所数	2	1	2	0	2	0	1	1	社
②【成果指標の説明】	提供されたドナーが勤務する国内の事業所からの、申請数を成果指標とする。									
事業環境等	事業実施における課題点と改善に向けての取組【12】	毎年申請数の見通しを立てることが困難であり、年によって申請数の増減がある。ドナー登録者の増加を図るため、市HP、ポスター掲示等での周知や、「二十歳のつどい」でのリーフレット配架を行っている。								
	他団体の実施状況【13】	多摩26市の全市が本事業を実施しており、補助金額は保健医療政策区市町村包括補助事業対象経費上限額となっている。								
	代替・類似サービスの有無【14】	☐ 有 ☒ 無								

【検証項目】

検証項目 【15】			一次評価	二次評価	本部評価	
	必要性	事業の実施が国・都の法令等で定められている	非該当	非該当		
		市が主体となって実施しない場合、市域内における当該サービスの提供が不十分になる恐れがある	該当	該当		
		現下の社会経済情勢に見合った事業である	該当	該当		
	有効性	成果指標の達成状況はどうか	2	2	0	/9
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の対象は適切か	3	3		
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の内容・実施方法は適切か	3	3		
	効率性・経済性	業務プロセスに改善の余地はないか	3	3	0	/9
		投入したコストが活動実績に見合っているか	3	3		
		国・都の補助金や受益者負担など、一般財源以外の財源確保がされているか	3	3		

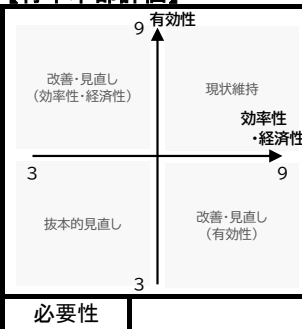
【一次評価・二次評価】

一次評価 【16】	必要性	骨髄移植は難治性の血液疾患に対する治療法として広く活用されている。令和5年度から3年連続で、国内の新規ドナー登録者数が減少しているが、多くの患者の命を救う重要な医療手段のため、事業の継続は必要である。	二次評価 【17】	必要性	多摩26市全体が本事業を実施しており、市が主体となって実施しない場合、制度の運用が不安定になる可能性が確認でき、国内の新規ドナー登録者が減少している中、支援継続の必要性は高いと考えられる。
	有効性	奨励金があることで、潜在的なドナー登録者が増加する可能性がある。また、奨励金を提供されることにより、骨髄提供を決断する動機が高まると考えられる。		有効性	成果指標の達成状況が目標に対して一定程度維持されており、奨励金の存在も全体的なドナー登録者の増加や骨髄提供の動機付けを高める効果が見込まれ、適切な事業であると考ええる。
	効率性・経済性	都の補助金も1/2充当できているため、持続的な補助事業の運用が図れている。		効率性・経済性	ドナー登録者への確実な周知は再認識されたところであるが、一定の財源確保、明瞭な活動実績からも適切な事業であると考ええる。

【外部評価】

評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等【18】	

【行革本部評価】

	コストの方向性	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
	総合評価	

改善の方向性と今後のスケジュール【19】	
----------------------	--